

同時開催

三岸節子コレクション展(常設展) 「受け継がれる美」

10月11日(土)～2026年2月1日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし10月13日、11月3日・24日、1月12日は開館)、
10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)、
12月28日(日)～1月5日(月)、1月13日(火)

三岸節子は、師である岡田三郎助のほか夫・好太郎をはじめとする
芸術家から、美とは何かを学んでいきました。受け継がれていった
美について、作品から読み解きます。



三岸節子《花・果実》1932年 © MIGISHI

■おしゃべり鑑賞会

コレクション展出品作品について、
楽しくおしゃべりしながら鑑賞します。

要申込

日時 10月25日(土)午後2時～3時
参加費 無料(要観覧料)
定員 10名(先着)
申込期間 9月25日(木)午前9時～10月24日(金)午後5時
申込方法 オンラインまたは電話
(先着。定員に達しない場合は当日申込可。)



▲申込み



三岸好太郎《海》1933-34年頃

■あいち県民の日連携事業

開館記念日・無料観覧デー

日時 11月3日(月・祝)

「せっちゃん飴」をプレゼント
(先着、数量限定)



学校ホリデー

日時 11月21日(金)

中学生以下の来館者に
「おばけのマール」クリアファイルをプレゼント！

■開館記念日

コレクション展ギャラリートーク

日時 11月3日(月・祝)午後2時～3時
参加費 無料(無料観覧デー)
申込み 不要(当日直接会場)



当館マスコットキャラクター
「せっちゃん」

※最新情報は当館SNS、ホームページをご確認ください。
※当館および一宮市が取材した記録映像・音声等は、加工せずそのままウェブサイトや広報紙に掲載することがあります。



一宮市三岸節子記念美術館

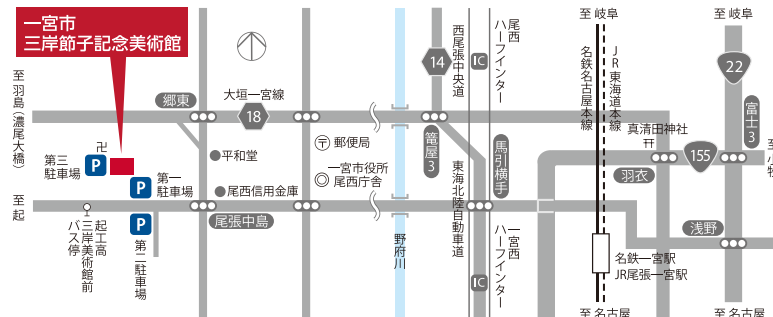
〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
Tel: 0586-63-2892 <https://s-migishi.com/>



f @s.migishi.museum @s.migishi.museum @s_migishi_muse

交通案内／公共交通機関をご利用の場合 名古屋駅から電車とバスで約40分

- JR東海道本線(名古屋駅⑤⑥番)にて「尾張一宮駅」下車、または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で10～15分)、一宮駅西口の名鉄バスターミナル②番のりばから「起(おこし)」行きで約15分、「起工高・三岸美術館前」バス停下車、徒歩1分。[バスは1時間に約3本運行]
- 岐阜羽島駅(東海道新幹線)からタクシーで約20分



一宮市三岸節子記念美術館

三岸節子生誕120年記念 特別展

岡田三郎助

2025 10/11(土)11/24(月・休)

優美な色彩
気品ある女性像



《少女読書》1924年 佐賀県立美術館蔵



《あやめの衣》1927年 ボーラ美術館蔵

【休館日】 毎週月曜日(ただし10月13日、11月3日・24日は開館)、10月14日(火)、11月4日(火)
【開館時間】 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
【主催】 一宮市三岸節子記念美術館・朝日新聞社
【特別協力】 佐賀県立美術館
【観覧料】 一般1,000円・高大生500円・中学生以下無料

※コレクション展(三岸節子常設展示室)観覧料を含む。

※20名以上の団体は2割引。

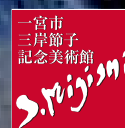
※一宮市在住の満65歳以上で住所・年齢の確認ができる公的機関発行の証明書等を持参の方、身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(マイイロID可、付添人1人を含む)は無料

■開館記念日・無料観覧デー

11月3日(月・祝)は無料で鑑賞いただけます

■清須市はるみ美術館・稲沢市荻須記念美術館 相互割引

清須市はるみ美術館 企画展「清須市はるみ絵画トリエンナーレ アーティストシリーズ+ 対話する風景」(10/10～12/4)、
稲沢市荻須記念美術館 特別展「荻須高德 リトグラフ展—稲沢市荻須記念美術館コレクション—」(10/24～12/7)の
いずれかの観覧券(半券可)ご提示で、本展観覧料が2割引となります(1枚につき1名限り・割引の併用不可)。



一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1
Tel: 0586-63-2892 <https://s-migishi.com/>



《清楚(少女)》1907年 佐賀県立美術館蔵



《めいとおり》1914年 佐賀県立美術館蔵

三岸節子生誕 120 年記念 特別展

岡田三郎助

優美な色彩・気品ある女性像



《富士山（三保にて）》1920年 佐賀県立美術館蔵

2025(令和7)年は、三岸節子(1905～1999)の生誕120年、二十歳の《自画像》が描かれてから100年の年にあたります。これを記念し、三岸節子が若き頃に師事した洋画界の巨匠・岡田三郎助の画業を紹介する展覧会を、佐賀県立美術館の特別協力により開催します。

1869(明治2)年、佐賀藩士の家に生まれた岡田三郎助は、幼い頃に上京し、寄寓した旧藩主の鍋島直大邸にあった百武兼行の油絵を見て洋画に関心をもつようになりました。その後、岡田家の養嗣子となり、曾山幸彦に洋画の指導を受けました。1895(明治28)年に黒田清輝、久米桂一郎が指導する天真道場入門。翌年、白馬会創立に参加するとともに、東京美術学校に新設された西洋画科の助教授に就任しました。1897(明治30)年、文部省初の留学生としてフランスに渡るとラファエル・コランの下で外光派の作風を学び、帰国後、東京美術学校教授となりました。1906(明治39)年に劇作家・小山内薫の妹八千代と結婚。文展や帝展、光風会展に出品する一方、女子美術学校西洋画科の嘱託教授を勤め、三岸節子などのちに女性洋画家の先駆者となる生徒たちを指導しました。

本展では、日本近代洋画の巨匠で第1回文化勲章も受章した岡田三郎助の典雅な女性像など、洋画を学ぶ女性たちもあこがれた気品に溢れた作品の数々を紹介します。また、2017(平成29)年に東京から佐賀市城内に移築・復元され、翌年から公開された岡田のアトリエとアトリエに隣接して設けられた女子洋画研究所についても、写真やドキュメンタリー映画の上映により紹介します。



《自画像》1899年 佐賀県立美術館蔵



《ムードンの夕暮》1899年 東京藝術大学蔵



《薔薇》1931年 佐賀県立美術館蔵



《支那絹の前》1920年 高島屋史料館蔵



《裸婦》1935年 佐賀県立美術館蔵
【佐賀県重要文化財】

3 点の三岸節子肖像画が勢ぞろい！



《若き日の三岸節子像》1923年



《三岸節子像》1923年 館蔵



《浴衣の少女》1923年頃
メナード美術館蔵



《麻の着物》1929年 豊橋市美術博物館蔵



ラファエル・コラン《日だまり(くつろぎ)》1896年 佐賀県立美術館蔵

■講演会

「岡田三郎助アトリエ」雑話 — 美が生まれ、夢が育まれた場所

- 講 師** 野中耕介氏 (佐賀県立美術館 学芸課長)
- 日 時** 10月26日(日)午後2時～3時30分
- 参加費** 300円(観覧料別途)、中学生以下無料
- 申込み** 不要。当日午後1時から整理券配付。



▲移築された
岡田三郎助アトリエ内部



▲女子洋画研究所にて 1932年

■講演会

「三岸アトリエについて」

- 講 師** 山本愛子氏
(三岸節子ご令孫・前 三岸アトリエ管理者)
- 日 時** 11月8日(土)午後2時～3時頃
- 参加費** 300円(観覧料別途)、中学生以下無料
- 申込み** 不要。当日午後1時から整理券配付。



▲三岸節子のアトリエ 1934年

■学芸員による

ギャラリートーク

- 日 時** 10月19日(日)
11月 9日(日)
ともに午後2時～3時
- 参加費** 無料(要観覧券)
- 申込み** 不要(当日直接会場)

■映画上映会「あるアトリエの100年」

要申込

岡田三郎助のアトリエについての
ドキュメンタリー映画(110分)を上映します。

- 日 時** 11月1日(土)・11月23日(日)ともに午後2時～3時50分
- 参加費** 500円(観覧料は別途)、中学生以下無料
- 定 員** 各60名(先着)
- 申込み** オンライン申込み、または直接窓口にて申込み
- 申込期間** オンライン：9月25日(木)午前9時～開催日前日の午後5時
美術館窓口：9月25日(木)午前9時～開催日当日の午後1時



▲アトリエの主人公たち
左から 岡田八千代、岡田三郎助、辻永
◎あるアトリエの100年上映委員会



▲11月1日申込み



▲11月23日申込み

■三岸節子 生誕120年記念

朗読劇「花よりも～三岸節子物語～」

要申込

2022年市民有志により結成された朗読劇団の
メンバーが、三岸節子の生涯を朗読劇で表現します。
オリジナル脚本により、三岸節子の姿が浮かび
上がります。

- 日 時** 11月16日(日)午後2時～4時
- 出 演** 声劇 Caravan いちのみや
- 定 員** 60名(先着)
- 参加費** 500円(観覧料は別途)
中学生以下無料
- 申込み** オンライン申込み、または
直接窓口にて申込み
- 申込期間** オンライン：9月25日(木)午前9時～
11月15日(土)午後5時
美術館窓口：9月25日(木)午前9時～
11月16日(日)午後1時



▲20才の頃の三岸節子 1925年、
春陽会展初入選《自画像》とともに



▲申込み